

NAMIDA

karinomaki

ゆめ

夢の中で、私はだんだん畑にいました。そこに、花を植えていく仕事をしていました。しかし、ある日、体が痛くて痛くて仕事を休みました。

恐怖の対象

私は精神病患者です。恐怖の対象となっている人がいます。私は夢の中で、その人に、「仕事を休む」と電話をしました。

怒鳴り散らす人

その人は、私を怒鳴り散らし、さんざんに心を傷つけました。

「何を考えている！！だからあんたはだめなんだ！！仕事に行けない人間なんて、クズだ！！」

A病院

私は夢の中で、A病院に電話しました。かかりつけの精神病院です。そして、主治医の先生がいらっしゃるかたずねました。「もうお帰りになりました。かわりに、あなたの担当が行きますので、お待ち下さい。」と言われました。

山道

私は、山道を登っていました。すると、横に若い女の人がありました。女の方は言いました。「馬場です、参りました。」

「え？A病院からですか？でも、私、あなたに覚えがありません。」

「覚えていらっしゃらないのですか？私、あなたの発病当時からあなたの担当です。看護師の馬場ですよ。」

馬場さんは言いました。

「ああ、あの馬場さんですか。どうして忘れていたのでしょうか。」
私はそう言いながら、馬場さんと山道を登っていきました。

自傷

馬場さん、どうして人は自傷するのでしょうかね。

私はそう言いました。

わたしもね、この山を登るの、本当につらいんですよ。引き返したくなります。あるとき、「飛び降りてしまえ」という声が聞こえたんですよ。だから私は「ダメだ」と言いました。この山を登るのは私の大切な仕事なんだからと。でもね、馬場さん。気がついたら私の左の顔が、真っ黒になっていたんですよ。私は声に逆らったはずです。でもね、気持ちいいな、と思っていたら、逆のことになっていたのです。顔を岩にぶつけていたのです。

生きること

馬場さん、人は生きていきたいのです。でも、悲しいんです。そして、心地よさを求めるあまりに、死を恐れなくなっていくのです。それは、死にたいからでなく、生きたい！！と思いきりすぎです。

精神病患者は、死にたいのではなく、生きることがいやなのでもなく、もがいているうちに、心地よさに身をまかせて自傷してしまうのですね。

目覚め

そこで、目が覚めた私は、わーっと泣きました。

先生、馬場さん、・・・と言って泣きました。

ありがとう

今、私は一人暮らしをしています。先生も馬場さんも、ありがとうございます。私の心の傷は精神病である限り、埋められないかもしれませんが、とにかく私は山道を登ります。